

乳幼児のやけど 事故防止ガイド

ヒヤリ・ハットレポート No.8



東京都では、やけどに関するヒヤリ・ハット体験や危害の経験を掘り起こすためにインターネットアンケート調査を行いました。

このガイドは、調査結果に基づき、乳幼児のやけどを防止するためのポイントをまとめたものです。

インターネットアンケート調査概要

◆日常生活に潜むやけどの危険

○調査対象／東京都に居住する20歳以上の男女(3,000人) ○調査時期／平成24年12月

◆乳幼児のやけどの危険

○調査対象／東京都及び近県に居住する0～6歳(未就学児)の子供を持つ20歳以上の男女(3,000人)

○調査時期／平成25年8月～9月

乳幼児^{*}の身の回りにはやけどの危険がいっぱい!

^{*}当資料における「乳幼児」とは、0歳から6歳までの子供をいいます。

ガスコンロ等 (459件)

- 母親がキッチンのガスコンロで調理中に、息子がフライパンに触ろうとした。(3歳 男児)

炊飯器 (304件)

- 炊飯器の近くでよろけて倒れ、炊飯中の蒸気でやけどした。(2歳 女児)

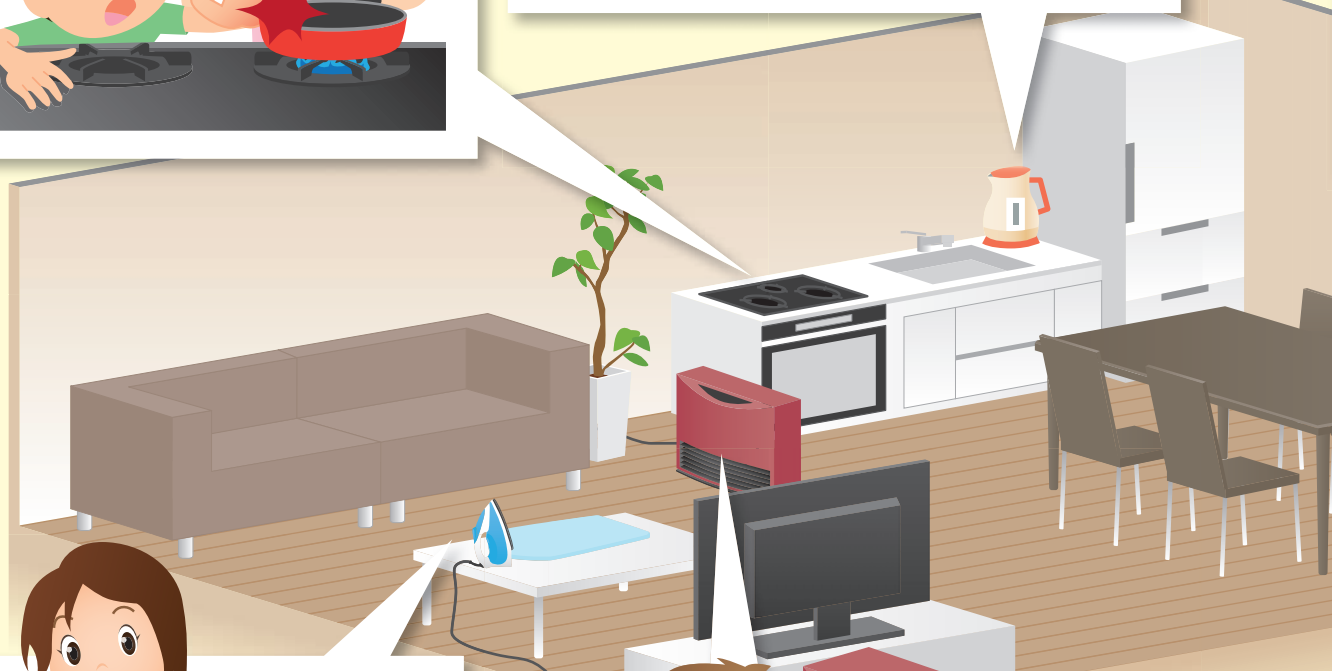
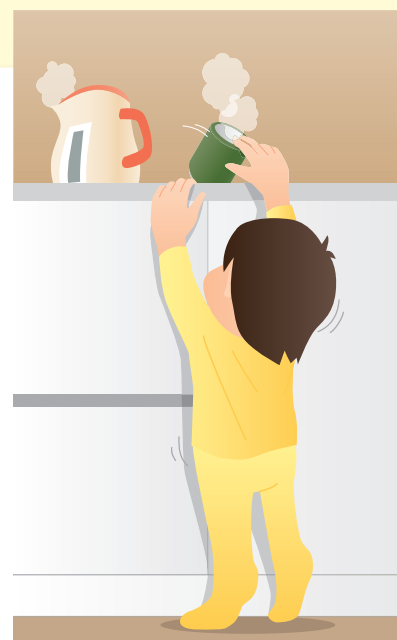


食物・飲物 (937件)

- キッチンでお茶を飲んでいたら娘が湯飲みを倒してしまった。(1歳 女児)

電気ポット・ケトル (199件)

- 息子がコードを引っ張ってしまい電気ケトルが倒れ顔に湯がかかった。(0歳 男児)



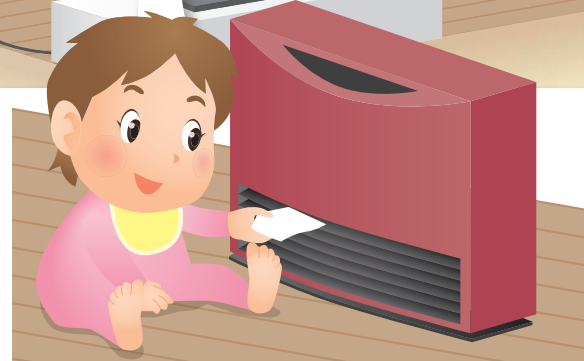
アイロン (251件)

- アイロンを使用した後、10分経っていたがまだ熱く、少し目を離れたすきに触ってしまった。(1歳 女児)



ストーブ・ファンヒーター (225件)

- ファンヒーターの吹き出し口に紙をつっこんで遊んでいた。(0歳 女児)



～3,000人の保護者に調査 4,772件のヒヤリ・ハットや危害の事例が～

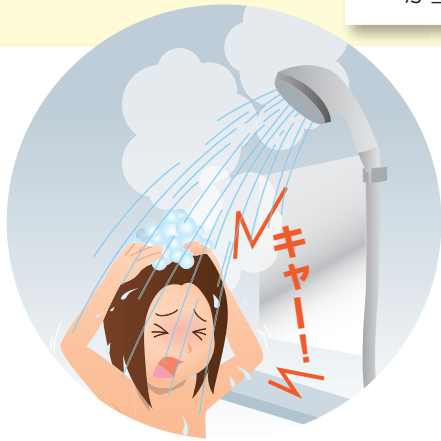
※「ヒヤリ・ハット」～やけどしそうになった。「危害」～実際にやけどをした、発火、発煙した。

公園の遊具等の屋外にある金属
(147件)

- 滑り台が熱くなっている、おしりをやけどした。(1歳 女児)

車・バイク (83件)

- 駐車していたバイクのマフラーにふくらはぎが当たってしまいやけどした。(5歳 女児)

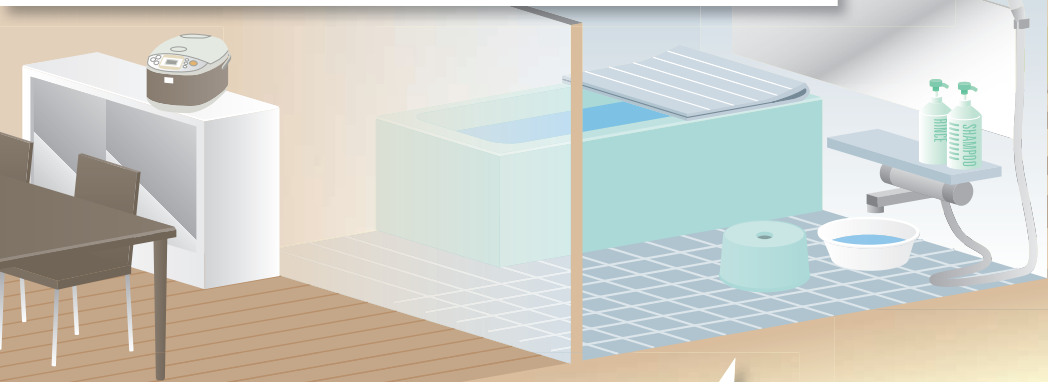


シャワー (191件)

- 娘にシャワーをかけているとき、突然お湯が熱くなり、やけどしそうになった。(5歳 女児)

浴槽内 (66件)

- 追いだきで熱いお湯が出ているところに背中があたり、やけどした。(2歳 男児)



ドライヤー (87件)

- ドライヤーで娘の髪を乾かしているとき、同じ箇所にも熱風を当て過ぎて熱がった。(5歳 女児)



花火 (435件)

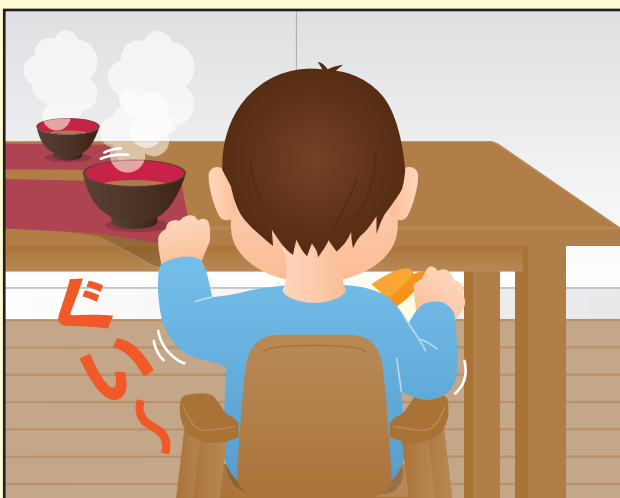
- 友達と花火をしていたとき、終わったばかりのまだ熱い花火を拾おうとして触ってしまった。(3歳 男児)

あっ、危ない!! ~家庭内での日常生活におけるやけどの危険~

<食物・飲物>

ランチョンマットを引っ張り、上にある熱い味噌汁がこぼれそうになった。

(0歳 男児)



<炊飯器>

自分で台を持ってきて、台の上に乗って炊飯器の蒸気口に手をつけた。

(1歳 女児)

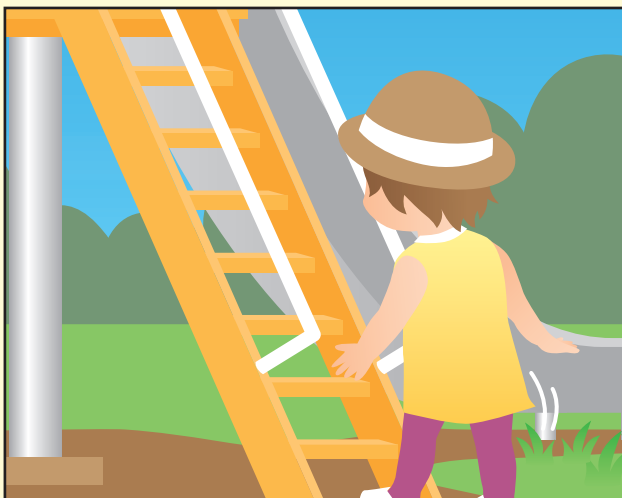


こんなところでやけど? ~意外な場所・製品でのやけど事例~

<滑り台>

日差しで熱せられた公園の金属製の滑り台で指先をやけどした。

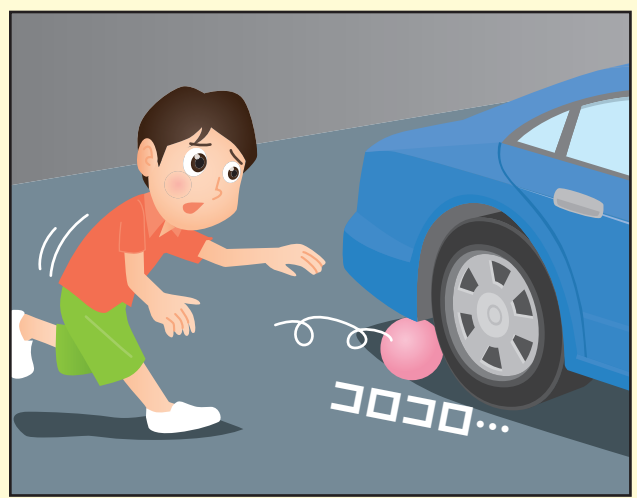
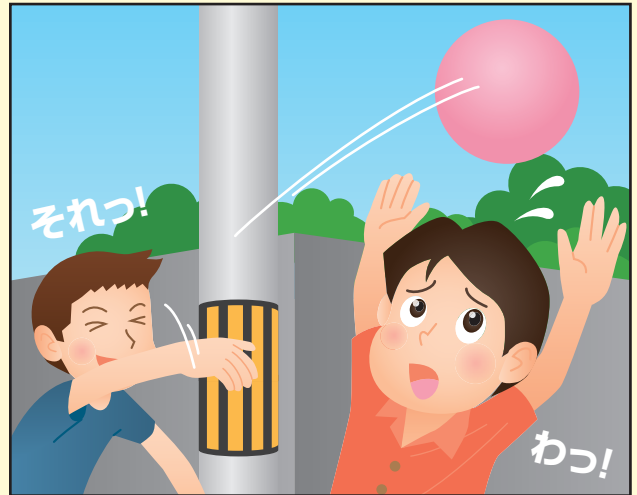
(3歳 女児)



<車のマフラー>

車の下に入ったボールを取りにもぐった際にマフラーに触れてやけどした。

(5歳 男児)



乳幼児のやけど防止のポイント

0歳

食物や飲物、熱湯に注意

(事例) 「作りたての熱い離乳食をそのまま子供の口に入れてしまった。」
「温度を確かめずに子供を浴槽に入れたら思っていたより高温だった。」



必ず大人が温度を確認!!

ハイハイや伝い歩きを始めたら・・・

(事例) 「ハイハイしているとき、床に置いてあった電気ポットのコードに引っかかり、ポットが倒れそうになった。」



子供の手が届くところには熱くなる物を置かない!!

1～2歳

行動範囲が拡大し、好奇心も向上

(事例) 「ストーブの周辺で遊んでいて、転びそうになり、ストーブの上に手を付けて手のひらをやけどした。」
「キッチンにイスを持ってきてその上に立ち、ガスコンロのスイッチを押し点火した。」



- ・成長に伴う行動の変化に注意!!
思わぬいたずらをするかも!!
- ・蒸気が出ない、お湯がこぼれない等、
やけど防止対策がされている製品を選ぶ!!

3歳
以上

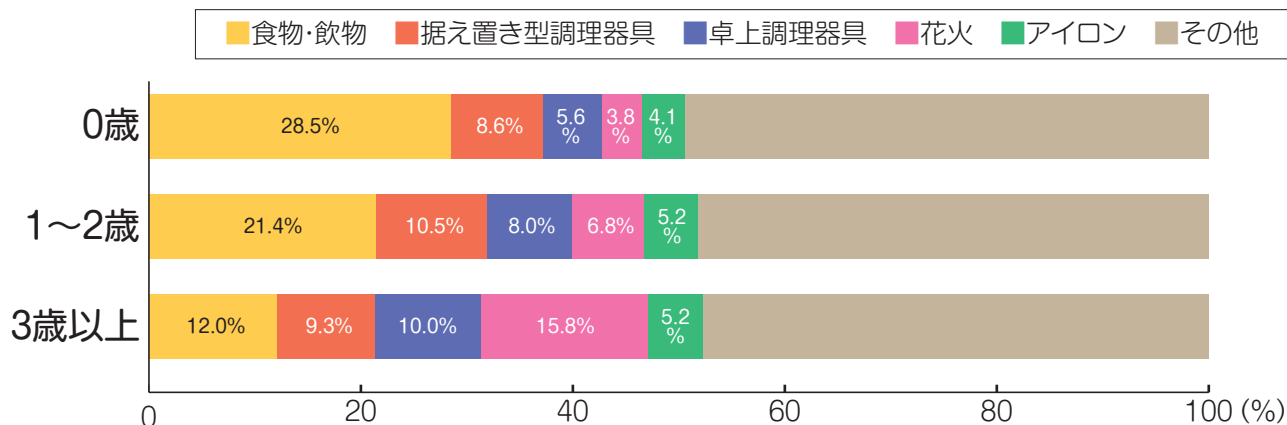
いろいろな遊びを覚え、 行動も活発に

(事例) 「花火を友達と見せ合いしようと思ってお互いに相手に火花が出る方を向けてしまった。」
「娘がハンカチに自分でアイロンをかけているときにアイロンの先が足に触れてやけどをした。」



大人が気を付けるだけでなく、子供に正しい物の使い方や火災の危険を教える!!

やけどの危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった主な製品

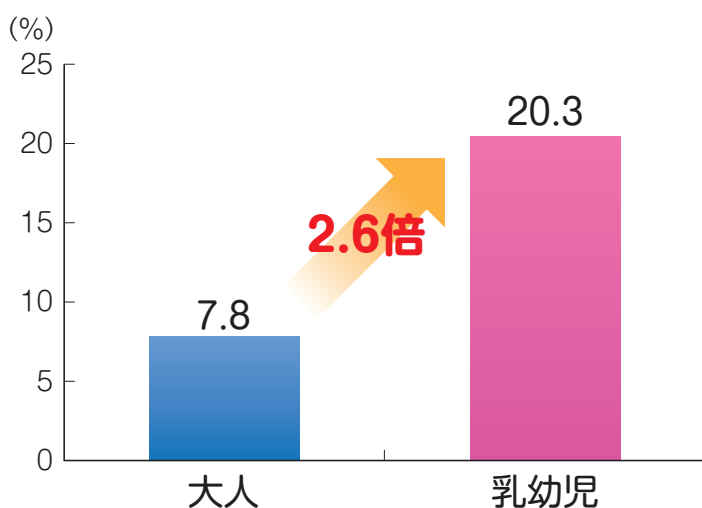


やけどの危害、ヒヤリ・ハット経験の原因になった製品を見てみると、0歳においては、「食物・飲物」が危害、ヒヤリ・ハット経験中の3割近くを占めていますが、年齢が高くなるに伴い割合が低下していきます。

一方、卓上調理器具（カセットコンロ等）や花火については、0歳においては割合が低いですが、年齢が高くなるとともに、危害、ヒヤリ・ハット経験に占める割合が高くなっていく等、年代により傾向が異なります。



乳幼児と大人がやけどした際の受診率の比較



大人が住宅内でやけどした事例で、病院を受診するまでに至った事例は7.8%と1割にも満たない一方、乳幼児がやけどをした事例では20.3%と大人の2.6倍の受診率になっています。

乳幼児は皮膚が薄いことや体が小さく体表面積が少ないことから、やけどをしてしまった場合は重症化しやすいので特に注意が必要です。

やけどをしてしまったときの応急処置

1. 冷水等で冷やす

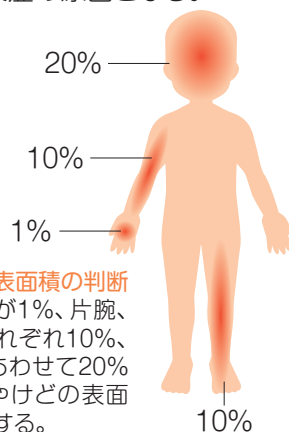
患部に触らないように、直接または服の上から冷水で冷やします。広範囲の場合、水でぬらしたシートなどで覆います。ただし、乳幼児の場合、低体温からショック症状を起こすため（体温が32度以下）、冷やし過ぎないように気を付けます。



2. 状態をみて、対応を判断

乳児の場合、身体の表面積の10%以上のやけどで生命が危険な状況になるので、直ぐに救急車を呼びましょう。また、やけどの範囲が狭くても次のようなときは、患部を冷やしながらい医療機関を受診しましょう。

- 顔や頭、指の関節などのやけど
⇒ひきつれやケロイド、動き制限など後遺症の原因になる。
- 水ぶくれができたり、皮膚がジクジクしている
⇒感染症の原因となる。



● 身体の表面積の判断
手のひらが1%、片腕、片足がそれぞれ10%、顔、頭はあわせて20%と考え、やけどの表面積を判断する。

3. 患部を保護する

清潔なガーゼやシーツ等で覆って、医療機関を受診します。乳幼児は感染の危険があるため、狭い範囲のやけどでも受診しましょう。痛みが取れて赤くなった程度であれば、流水で冷やしてガーゼで覆い、様子を見ましょう。



参考 東京都福祉保健局「乳幼児の事故防止教育ハンドブック」

東京都消費生活 総合センター

事故にあったとき、商品サービスに原因があると思われる場合には、消費生活センター等の相談機関に申し出ましょう。

消費生活相談
03-3235-1155

東京消防庁救急相談センター

急な病気やケガをした場合に、「今すぐ病院へ行くべきか?」、「救急車を呼ぶべきか?」など迷ったときは「東京消防庁救急相談センター」へ相談しましょう。

#7119 (プッシュ回線・携帯電話・PHS)
ダイヤル回線電話やつながらない地域からは
23区:03-3212-2323
多摩地区:042-521-2323



調査結果の詳しい内容:「東京くらしWEB」
<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/>
Twitter:「東京都消費生活行政」
https://twitter.com/tocho_shouhi
Facebook:「東京都消費生活」
<https://www.facebook.com/tocho.shouhi>

事故防止ガイド



「幼児の身の回りの事故防止ガイド」「乳幼児の誤飲事故防止ガイド」も配布中です。WEBでもご覧になれます。

※詳しくはお問い合わせください。

このパンフレットの
お問合せ先 東京都生活文化局消費生活部生活安全課
電話 03-5388-3055 (直通)



東京都

平成25年度
登録(25)52

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用